

1章 コンパイル時指示機能

従来の COBOL では、プログラムテキストに関する操作や条件翻訳（条件によってプログラムテキストを有効/無効する）機能は、REPLACE 指定の COPY 文、REPLACE 文等がありました。ただ、C 等の他言語に比較すると、条件により変更ができない等、扱いづらい面があり、COBOL 向けのプリプロセッサを利用して代替する場合もありました。COBOL2002 では、この点を強化しコンパイル時指示機能として新たな機能を提供しています。

コンパイル時指示機能では、コンパイル時の選択機能やコンパイル時に利用する変数（翻訳変数）の定義を行うことが可能です

- 条件翻訳：コンパイル時に翻訳の対象または、省略の対象になるプログラムソースの行の選択を行う機能をいいます。DEFINE 指示、EVALUATE 指示、IF 指示があります。

1.1 DEFINE 指示

コンパイル時変数の定義を行い、コンパイル時変数へ値を設定します。

```
>>DEFINE 翻訳変数名 1 AS { { 定数 1 } } [OVERRIDE]  
                           { 算術式 1 }  
                           { PARAMETER }  
                           { OFF }
```

1.2 EVALUATE 指示

多分岐の条件コンパイルを行います。

```
>>EVALUATE { 定数 1  
              算術式 1  
              ブール式 }  
  
{ >>WHEN { 定数 2  
            算術式 2  
            ブール式 } { THROUGH  
                        THRU } { 定数 3  
                                算術式 } [ ソース行 1 ] } ...  
  
[ >>WHEN OTHER [ ソース行 2 ] ]  
  
>>END-EVALUATE
```

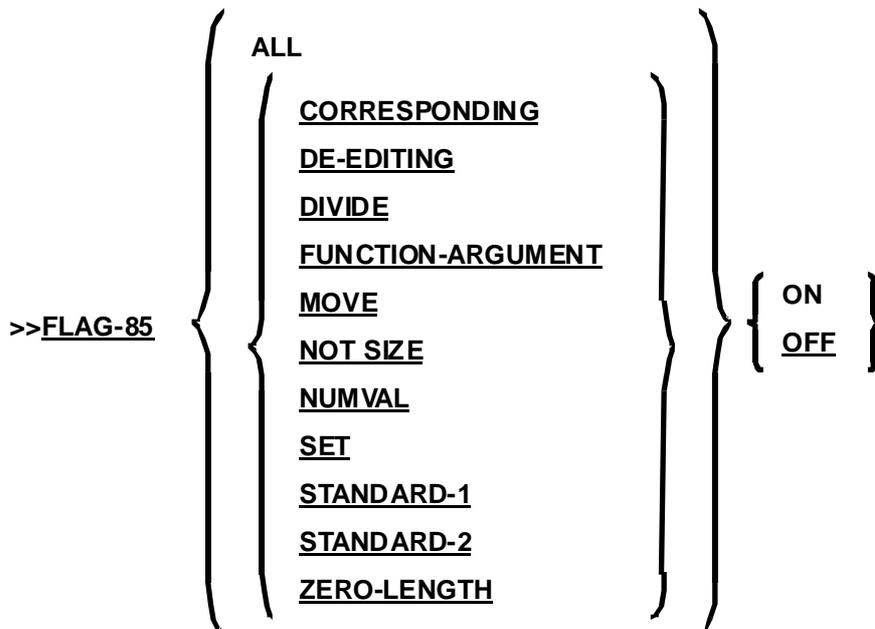
1.3 IF 指示

単分岐の条件コンパイルを行います。

```
>>IF 定数条件式 1 [ ソース行 1 ]  
  
>>END-IF  
  
[ >>ELSE [ ソース行 2 ] ]
```

1.4 FLAG85 指示

従来の COBOL 規格と COBOL2002 規格の間で、互換性が欠ける構文に関してフラグを立てる項目を指定します。



1.5 SOURCE FORMAT 指示

後続のプログラムテキストの書式が、固定形式 (FIXED) か自由形式 (FREE) かを指定します。

>>SOURCE FORMAT IS { FIXED }
 { FREE }

1.6 PROPAGATE 指示

後続のプログラムテキストの関数、メソッド、プログラムに対して例外条件の自動的な伝播を有効とします。

>>PROPAGATE { ON }
 { OFF }

1.7 TURN 指示

後続するプログラムテキストに対して、特定の例外条件に対するチェックを行うかどうかを指示します。

```
>>TURN {
    例外名 1
    EC-I-O [ファイル名 1] ...
    EC-I-O-AT-END [ファイル名 1] ...
    EC-I-O-INVALID-KEY [ファイル名 1] ...
    EC-I-O-PARMANET-ERROR [ファイル名 1] ...
    EC-I-O-LOGIC-ERROR [ファイル名 1] ...
} ...

CHECKING {
    ON [WITH LOCATION]
    OFF
}
```